

鈴木 由依子 助教
博士(保健学)

Yuiko Suzuki

✉ yuiko.suzuki@komatsu-u.ac.jp

研究
Keyword

看護技術、リンパ浮腫

プロフィール

2014年 名古屋大学大学院 医学系研究科 博士課程前期課程 修了
 2015年 こまつ看護学校 専任教員
 2020年 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 助教
 2022年 金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 博士後期課程 修了

研究分野

看護学

所属学会

看護実践学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、コ・メディカル形態機能学会、
 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン協議会、日本看護科学学会、看護理工学会

専門分野・研究分野

リンパ浮腫のセルフケアは患者の負担が大きい

乳がん術後リンパ浮腫は、乳がん術後に生じる二次性のリンパ浮腫で、罹患者の生活に大きな影響を与える疾患です。乳がん患者の増加と共に、その数は増加してきているといわれています。リンパ浮腫治療には複合理学療法が用いられますが、浮腫の悪化を防ぐため、また治療効果の維持のために、患者にはさらに自宅でのリンパ浮腫管理が求められています。しかし、乳がん治療とリンパ浮腫管理を同時に行わなければならない患者の負担は大きく、実際に患者からもセルフケアの大変さを聞いています。そこで、継続できるセルフケアを考えていくことを目的に研究に取り組みたいと考えています。

研究内容

リンパ浮腫のセルフケアを確立するための基礎研究

これまでの研究では、MR装置を用いて上肢リンパ浮腫患者における患肢の水分分布を調査しました。その結果、上肢リンパ浮腫の水分分布は前腕尺側に偏りがあり、その部位に焦点を当てたケア（リンパドレナージなど）を考えられる可能性が示唆されました。現在は、ケア時間を短縮し、患者が継続できるセルフケアを目指して、動物を用いたリンパ浮腫の基礎研究に取り組んでいます。ラットでは、リンパ節郭清等によりリンパ流が阻害されると余剰リンパを逃がすための迂回路が生じます。このことに焦点を当て、患者が自分自身で行うリンパマッサージの方法を確立できないかを考えています。



図1. リンパ浮腫のセルフケア



シーズ・地域連携テーマ例

- リンパ浮腫のセルフケアに関する研究

論文

- Comparison of normal hindlimb lymphatic systems in rats with detours present after lymphatic flow blockage, Suzuki Y et al., PLOS One, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0260404>, 2021
- 看護専門学校における入学後間もない学生が教員へ発信する情報—学生支援ツールに書かれた内容より—, 鈴木由依子他, 看護実践学会誌, 33 (3), 43-49, 2021
- 上肢リンパ浮腫における水分の分布—MR画像を用いて—, 鈴木由依子他, 形態・機能, 16 (2), 83-89, 2018

講演・口頭発表等

- 正常ラットの後肢リンパ系とリンパ流遮断後の迂回路との比較, 第52回日本創傷治療学会, 2022年11月
- Identification of the normal hindlimb lymphatic system in rats, 9th APETNA and 30th JWCOM, 2021
- 学生支援ツール「自己コンディション表」の効果—自己コンディション表の内容分析から—, 日本科学学会第39回学術集会, 2019年11月
- 巻尺で測定した周囲径と自覚症状はリンパ浮腫の指標として使えるか, 第13回日本看護技術学会学術集会, 2014年11月
- 上肢リンパ浮腫における水分の分布—MR画像を用いて—, 第40回日本看護研究学会学術集会, 2014年8月

競争的資金等の研究課題

- 新しいリンパ浮腫開発のためのリンパ流遮断後の迂回路形成過程の解明：科学研究費補助金（基盤研究C）, 2022-2024
- 郭清によるリンパ経路の変化に着目した組織学的根拠に基づくリンパドレナージ法の開発：科学研究費補助金（研究活動スタート支援）, 2020-2022

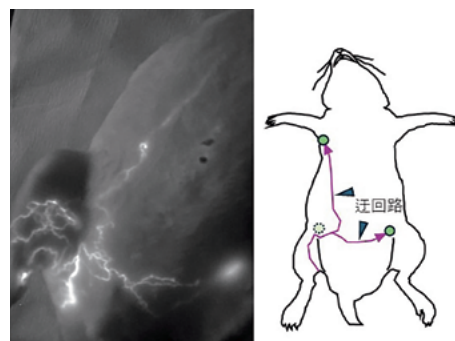


図2. リンパ節郭清後のラットのリンパ流（迂回路形成の例）